

11/1

近 粗朶(そだ) 柵ワークショップを開催 自然工法を用いて柵づくり

地元で採取した自然の枝「粗朶(そだ)」を利用して柵を作るワークショップが1日、河合町の香愛ローズガーデンで開催され、市民ら15人が同施設内で柵を作りました。

このワークショップは、天然県立自然公園のパトロール員が持つ自然の維持補修技術を多くの方に知ってもらうため、県の森林環境税を利用し、市が主催したものです。

この日は、東北芸術工科大学の田賀陽介さんを講師に迎え、近くの里山林から採取した直径5センチメートル長さ2メートルの広葉樹の粗朶を使用し、3人1組になり、杭を中心に編んでいきました。

参加者は最初はとまどいながらも、慣れてくると見栄えを気にしながらきれいに編んでいました。



11/7

中 災害シミュレーションゲーム「風水害24」 山間地での風水害ゲーム開発で防災意識の向上を図る

特レポ

防災意識向上に役立つ災害シミュレーションゲーム「風水害24」。その「地域版」といえる中山間地での災害にスポットを当てたゲーム開発のため、7日に飛騨市役所でワークショップが開かれました。

地域版は古川町で教育支援に取り組む株式会社Edo(関口祐太社長)が企画し、東京のNPO法人・イシュープラスデザインと共同開発しています。

ワークショップは風水害の接近から通過までの24時間を追体験できるシミュレーションゲームです。土砂崩れや洪水が発生し、警戒レベルが上昇する中、参加者は4、5人のグループになって本番さながらに情報収集や声かけ、避難などさまざまな行動を選択して災害に備えました。

地域版はこうした体験会などを重ねて2年後の完成を目指しています。



11/17

郷 神岡小学校の児童が江馬氏館跡公園で土塀修復作業 土の歴史や文化財の大切さを学ぶ

神岡小学校の6年生54人が11月17日、神岡町の江馬氏館跡公園で江馬氏館跡の見学と土塀修復作業を体験しました。

この授業は、郷土学習として江馬氏の歴史や国の史跡・名勝の江馬氏館跡を知ってもらい、郷土の歴史や文化財の大切さを学んでもらおうと行われました。

館跡の見学では、庭園の見える接客の間で、室町時代の眺めと変わらない庭園を眺めながら、市教育委員会の大中学芸員から江馬氏の歴史や文化財の大切さなどについての話を聞きました。また、一部剥がれ落ちた土塀の修復作業体験では、児童らは水で練った土を板の上に乘せてもらい、左官工事用のコテを使って土塀に丁寧に塗る体験も行われました。



11/21

宇 「ハイパーカミオカンデ計画」講演会 宇宙の大きな謎に迫る

特レポ

宇宙の謎を解くため、2020年代後半の実験開始を目指して建設が始まった「ハイパーカミオカンデ計画」の市民向け講演会が21日に神岡町公民館で開かれ、市民ら約150人が聴講しました。

この講演会は、「ハイパーカミオカンデ計画推進期同盟会」が主催したもので、東京大学宇宙線研究所の塩澤真人教授が「ニュートリノ研究の次なる挑戦」と題して研究内容や今後のスケジュールを話しました。

塩澤教授は従来のスーパーカミオカンデでは得られていない陽子崩壊の発見や、宇宙の進化に決定的な役割を果たしている素粒子・ニュートリノの解明などハイパーカミオカンデ計画で期待される研究内容を解説し、来場者は宇宙の神秘に思いを馳せていました。



11/21 **フ** 飛騨市減塩フォーラムin河合
フォーラム開催で減塩に対する意識向上を図る



市が昨年度から本格的に始めている減塩の取り組みについて、その必要性や地域での取り組みを伝える「飛騨市減塩フォーラムin河合」が21日、河合町公民館で開かれ、市民約50人が減塩について学びました。

減塩フォーラムは、市民の高血圧の割合が高く、特にⅡ度高血圧の方の割合が、平成30年度県下で最も高いという結果を受け、塩分の取りすぎによる高血圧の取り組みとして減塩の意識を高めようと開催されました。

フォーラムでは、河合診療所の根尾実喜子先生から高血圧についての話と診療所の取り組みの紹介。後半の座談会では、具だくさんにするだけで、塩分が減らせることや、減塩醤油と普通の醤油を半々でブレンドすることで、こっそり減塩が可能であることなどの知恵も紹介されました。



11/22 **チ** 飛騨市民力レジプレ開校記念 村尾信尚さん講演会
チャレンジすることの大切さを伝える



市の生涯学習の強化を図るため、幅広い知識や技術をもつ専門家等を講師として招き、学習機会を提供する「飛騨市民力レジ」のプレ開校を記念した講演会が22日、飛騨市文化交流センターで開かれました。

講師は、関西学院大学教授で「NEWS ZERO」（日本テレビ）のメインキャスターを長年務められた村尾信尚さん。「私のチャレンジ～これまでも、これからも挑戦～」と題して講演されました。

村尾さんは、大蔵省（現財務省）での官僚経験や三重県庁での経験そして、NEWS ZEROのキャスターを務めるなどさまざまな人生経験から、その時その時に感じた事、思った事などを資料とエピソードを混えながら話しました。



11/22 **市** ふるさとこども大使になろう！～ふるさと巡りバスツアー～
市内の児童がふるさとの魅力を学ぶ

市内を巡るバスツアー「ふるさとこども大使になろう！～ふるさと巡りバスツアー～」が22日に行われ、市内小学校の4～6年生児童33人がツアーに参加しました。

このツアーは、市内の小学生に市内の魅力ある施設を巡ってもらい、市の伝統文化・自然などを学び地域に誇りと愛着を持つ子どもを「飛騨市ふるさとこども大使」に任命するものです。

ツアーでは、古川町の飛騨古川まつり会館や神岡町のひだ宇宙科学館カミオカラボの見学や、ドローンの操縦を体験しました。

ツアー終了後、道の駅スカイドーム神岡で任命式が行われ、都竹市長が任命証と名刺を児童一人ひとりに手渡しました。



11/25 **百** 中畑房さん 祝百歳！万歳！
歳おめでとうございます

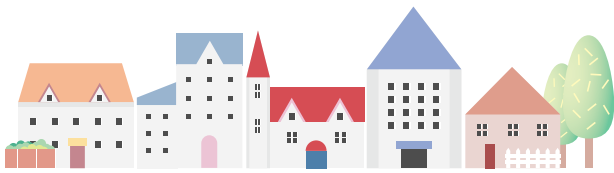


古川町向町の中畑房さんが25日、百歳を迎えられました。これに合わせ、市民福祉部の藤井弘史部長が自宅を訪問し、賞状やお祝いの花束、褒賞金を中畑さんに手渡しました。

今年、百歳になられる方はなんと15人。その中で唯一の男性である中畑さんは、大正9年11月25日生まれで、山野草や薔薇を育てたり、軽音楽やクラシックもよく聴いていたそうです。また、習字も上手で昨年まで冠婚葬祭の祝儀袋の名前も書いてくれたとのこと。明るい性格でいつもトンチを言ってはみんなを笑わせていた笑顔の素敵の中畑さん。

藤井部長が「百歳おめでとうございます！」と花束を手渡すと、中畑さんは「綺麗やなあ！そんな歳になったのか？」と驚いていました。





飛騨市

Facebook 公式アカウント

飛騨市役所

まちの話題に掲載しきれないイベントや写真は市の公式Facebookで配信。



11/25 ジビエの正しい知識を伝える

野生獣肉（ジビエ）の消費拡大と取扱店舗拡大を目的に、飛騨地域のジビエ振興団体「森のごちそうの里・コミュニティー飛騨」が11月25日、古川町公民館で料理人を対象としたジビエ調理講習会を開催しました。

「ぎふジビエ登録制度」に登録している飲食店タスパdeシャングリラのオーナーシェフ玉腰正人さんが講師を務め、鹿肉を使ったチンジャオロースとハンバーグの調理方法を実演しました。

また、同制度に登録している野生獣肉解体処理Bambi（バンビ）の原田大輔代表からジビエの特徴や入手方法、衛生管理方法などを説明しました。その後、参加者らは、ジビエのブロック肉をカットし、部位ごとの食べ比べを行いました。



11/26 飛騨のトマト農業発展に尽力

河合町稲越のトマト農家吉本一雄さんが公益社団法人「大日本農会」の農事功労者表彰で緑白綬有功章（りよくはくじゅゆうこうしょう）を受章され、市役所を訪れて都竹市長に喜びを報告しました。

吉本さんは夏秋トマトと水稲作を複合で経営しており、トマトは共同育苗施設の幼苗接ぎ木セル苗を導入、水稲は作業受託で面積を拡大し、菌床シタケや宿儺かぼちゃの栽培でリスク分散するなど実績を上げました。さらに、園芸の生産組合役員や農協理事などを歴任し、吉本さんの提案で実現したJAひだ飛騨地域トマト研修所（古川町信包）の研修マネージャーとして4年間で新規就農者8名を輩出するなど地域農業への貢献が高く評価されました。



11/27 中部電力パワーグリッドと防災協定を締結

市と中部電力パワーグリッド（株）高山営業所は27日、災害により市内で停電が発生した場合に早期復旧を行うための連携協定を結びました。

協定では、倒木などで電線や電柱が被害を受けた際、停電復旧に係る応急処置に支障となる障害物の除去、道路の啓開等を行うことについて、協力することを定めています。

この日は、市役所で協定の締結式が行われ、都竹市長と同社の田口章吾所長が協定書を取り交わしました。都竹市長は「協定を契機に連携を深め、緊急時の対応をしたい」と話しました。



11/27 中部テレコミュニケーションとCATV再整備協定を締結

設備の老朽化が課題となっている飛騨市ケーブルテレビ（CATV）について27日、中部テレコミュニケーション（株）と市の間で事業の移管に向けた基本協定を結びました。

同社は今後、協定に基づいて2023年3月末までに設備更新や、CATV加入者の移行手続きを進めます。民営化後は、通常の地上波放送に加えてBS4K、8K放送に対応した光テレビサービスや光電話、光ファイバーを使った高速インターネットも提供します。

この日は、市役所で協定の締結式が行われ、都竹市長と同社の宮倉康彰社長が協定書を取り交わしました。



11/30 NPO法人コメリ災害対策センターと防災協定を締結

市とNPO法人コメリ災害対策センターは30日、災害時に物資供給を行うための協定を結びました。

協定では、同法人が所有する全国の流通センターに備蓄している資器材を、災害時に市からの要請に応じて迅速かつ円滑に物資供給を行うことを定めています。

この日は、市役所で協定の締結式が行われ、都竹市長と同法人の古澤通規常務理事が協定書を取り交わしました。都竹市長は「全国に物流網を持つコメリさんと協定を結ぶことができ大変心強い。安心を市民に届けることができる一つの弾みになれば」と話しました。

